

JR東海におけるお身体の不自由なお客様の対応について 横澤たかのり参議院議員と意見交換を行う。



8月1日、J R 東海労とJ R 総連は、参議院議員・横澤たかのり氏（立憲民主党・岩手）と、J R 東海におけるお身体の不自由なお客様等への対応について意見交換を行い、要望書を提出しました。関西地区分会からは、三田分会長が参加しました。

要望内容

①お身体の不自由なお客様に対する乗車券の発売等について

J R 東海では、障がい者割引乗車券を購入する場合は、駅の窓口で障がい者手帳等を提示しなければなりません（J R 東日本・J R 西日本はネットで申し込めます）。

②駅の無人化や社員の減少による影響に関して

J R 東海では、駅の無人化が拡大されて、目の不自由なお客様やご年配のお客様が無人駅で乗車券を購入する際は不便・困難になっています。

③ホームと列車の段差・隙間を埋めるためのスロープの危険性について

新幹線用スロープは、N700S系のデッキに掛かりにくいためズレで落下する危険性があります。また、ホームと車両の段差・隙間解消の取り組みも進んでいません。

④誰もが安全で快適な鉄道を利用できるための設備の改善について

J R 東海では、今年の4月から「鉄道駅バリアフリー料金制度」を導入しています。しかし、例えばエレベーター設置についても、駅の利便性や機能性等を考慮していません。外国人のお客様等がエレベーターを利用される機会が増えて、エレベーターが混雑する状況になっています。誰もが安全で快適な鉄道を利用できるように、事業者に対して、バリアフリーに関する設備（整備）計画等の優先順位を設けるべきです。

JR東海労は、これからも誰もが「安全」「安心」「快適」「便利」に利用できる鉄道の実現にむけて取り組んでいきます。